

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	増子 友紀	所 属	U18
大会名	令和 6年度 関東高等学校女子バスケットボール大会		
期 間	2024年 6月8日 ~ 9日（参加日：6月8日）		
会 場	アリーナ立川立飛		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
6月5日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
6月8日	A 級 1 次審査	アリーナ立川立飛	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>● 3 PO の HDR について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リードは近づいてくるドライブに対してルーズザペイント（広がる動き）をする。 →オフェンスの姿の破片でもいいから見えるようにすること。 ・ただし、速攻の場合と区別すること。一番手がリードになる。 ・速攻でも HDR でもセンターも判定しにくい気持ちを忘れないことが大事。 →センターの方が良い場合もあることを忘れない。 <p>●あらゆる場面での「慮る」気持ちを大切にすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランク、年齢、性別関係なく、「クルー」で試合に臨むということ。 ・それぞれが自身の力を発揮できるようにすることが大事。 			
担当試合①			
期 日	6月8日（土） 1回戦		
対戦カード	藤村女子高校（東京） vs 白鵬女子高校（神奈川）		
ク ル ー	CC：増子友紀（埼玉） U1：若菜有貴氏（千葉） U2：大森彩恵氏（山梨）		
ミーティング内容		審判主任：茂泉圭治氏（神奈川）	
<p>▶ゲーム前の PGC</p> <p>3 PO メカニクスの確認 対戦チームの特徴について</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>試合のポイントが190cmのセンター周りのプレーであったが、DFの守り方など整理しきれていなかった。その結果、選手にフラストレーションを与えることになってしまった。クルーでは事前に情報を確認しており、前半の内から気になっているプレーであったが、情報の共有のみで、対応についての話ができていなかった。試合からなくしていきたいプレーについて、どういう手立てをするか、しっかりと考え、実行する力がもっと必要であると感じた。</p>			
全体の感想			
<p>●ゲーム後のミーティングでもご指摘頂いたように、試合の中でポイントとなるプレーへの対処が悪かったと自分でも感じています。プレーへの気づきに対して、どうやってメッセージを伝えていか、ゲーム全体を考えたときに、いつどう笛を入れる必要があるかもっと力をつける必要があると思いました。</p> <p>●自身のレフェリングが淡々としている、とご指摘を頂き、ゲームの状況やプレーの中身に合わせて表現方法を工夫していけるよう、さらに練習を重ねていきたいと思います。</p> <p>●クルーチーフとして、3人で一貫したレフェリングができるよう、クォーター間やタイムアウトの際の話し合いを工夫していけるようになりたいと感じました。</p>			